

令和2年度 京友会国際賞の選考結果

本年度は、二本の論文をいずれも受賞に値する素晴らしい論文であると判断し、受賞対象とした。

MARCELO 氏の論文は、日本でこれまで注目されてこなかったイスパノアメリカ系移民を対象とし、「社交」という概念をキーワードに、関西地方に居住するイスパノアメリカ人移民者のアイデンティティ構築やコミュニティ形成のプロセスを丹念に分析優れた論文である。質的調査に比重をおきつつも、量的データも十分に検討した緻密な分析により、移民の多様な経験に焦点をあてて、移民の具体的で多様な生き方を抽出しており、グローバル化する現代社会において非常に意義があるきわめて興味深い内容である。

倪氏の論文は、理論的にはその存在が想定されつつも、これまでほとんど検討されてこなかった、ワーキングメモリ・トレーニングの「負の効果」の存在を検証した優れた論文である。これまで研究者を含む多くの者がトレーニングに害は無いと考えてきたが、それが楽観的すぎると警鐘をならすとともに、認知能力の可塑性に関する研究に理論的に貢献している。これまで世界中で開発されてきた研究用、商業用の認知能力に対するトレーニングの考え方を根本から変える可能性のあるたいへん優れた研究であると評価できる。

今後も二人の研究生活が充実し、世界に向けて発信・発展されることを期待したい。

2021年6月4日 審査委員 南部啓子・服部憲児

| 氏名 | 学年 | 論文題目 |
|---|----|---|
| ピフォー ガルベス マルセロ アレハンドロ PIFFAUT GALVEZ MARCELO ALEJANDRO (チリ) | M2 | 移民者同士のアイデンティティ構築過程における「社交」： 関西地方に居住するイスパノアメリカ人の事例に着目して |
| ニ ナン 倪 楠 (Ni, Nan) (中国) | D1 | Potential negative effects of working memory training (ワーキングメモリ・トレーニングの潜在的な負の効果) |